

第5回 江別市障がい福祉計画等策定委員会 議事録

日時 平成29年12月15日(金) 10:00～11:00

場所 江別市民会館2階21号室

出席者：【委員】今井委員長、石井委員、白川委員、菅原委員、那須野委員、工藤委員、小西委員、小林委員、
谷藤委員、松本委員、山本委員

※欠席：中川副委員長、岩城委員

【市】真屋部長、三上次長、白石室長、四條課長、本多課長、宮崎係長、河崎係長、永利主査

【委託業者】(株)サーベイリサーチセンター 石橋主任研究員

1. 開会

2. 議事

(1) 第5期障がい福祉計画(平成30年度～32年度)及び第1期障がい児福祉計画
(平成30年～32年度)の案について

(2) パブリックコメントの実施について

3. その他

4. 閉会

本多課長： 皆様お揃いになりましたので、これより「第5回江別市障がい福祉計画等策定委員会」を開会させていただきます。

本日の出席委員は13名中11名で、半数以上が出席しております。委員会要綱第5条第3項の規定により、本日の委員会は有効に成立しておりますことを申し添えます。

まず、資料の確認をさせていただきます。事前に送付した資料として、資料1「障がい者支援・えべつ21プラン」の冊子がございます。次に、資料2「第4回策定委員会以降の計画案の修正部分について」がございます。以上が事前配付資料でございます。

当日配付資料は、「次第」、当日配付資料1「パブリックコメントの実施について」、当日配付資料2「江別版「生涯活躍のまち」構想の概要について」を配付しております。以上でございます。資料はよろしいでしょうか。

この後の進行につきましては、今井委員長にお願いいたします。

委員長： 皆様、おはようございます。本日もどうぞよろしく申し上げます。

まず、傍聴希望の方が2名いらっしゃいますので、入室を許可したいと思います。

(傍聴者入室)

今日は、前回の策定委員会で皆様から出していただいた意見に基づき修正した計画案がございます。市民の皆様意見を集める「パブリックコメント」を実施するための案を確定することを第一の目的に開催いたします。委員の皆様、どうぞよろしく申し上げます。

それでは早速、議事に入ります。

次第2の議事、(1)第5期障がい福祉計画及び第1期障がい児福祉計画の案について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局から資料について説明】

委員長： ありがとうございます。市議会常任委員会、企画政策部からの提案、そして委員の皆様の意見を反映したものが、今回示されている案であると捉えていただければよいかと思います。ただいまの事務局からの説明について、ご意見・ご質問があればお願いします。

石井委員： 前回示された計画は“素案”となっており、今回は“案”となっております。“素案”から“案”になったのはなぜでしょうか。

本多課長： 前は、策定委員の皆様には初めてお見せするという事で、案の前の段階ということから“素案”としておりました。今回は、“素案”を修正したものでございますので、“案”という形でご議論いただき、確定した“案”をもとにパブリックコメントを実施するという意味から、パブリックコメントにかける“案”ということで、“案”と表記しております。健康福祉部では、同時期に高齢者総合計画を含む4計画でパブリックコメントを実施いたします。いずれの計画につきましても、パブリックコメントに向けて“案”という形で実施することにしております。以上でございます。

石井委員： 私は、“素案”が本当に基礎的な考え方であって、“素案”から“案”に一段階下がったような印象を受けます。そのため、前回の計画が“素案”でなく“案”であって、今回の計画が“案”ではなく“素案”ということであれば、事務局のおっしゃることがわかります。私は“素案”の方が上位であると捉えており、質問いたしました。

委員長： 私は、“素案”というのはたたき台という意味合いで受け止めていて、“案”というのはたたき台を修正して確認したものという意味合いで捉えていました。よって、事務局の説明が適切ではないかと思いますが、いかがでしょうか。(委員承認)

では、既にお目通しかと思われまますので、他にご意見がありましたらお願いいたします。(特

になし)

では、私から1点よろしいでしょうか。当日配付資料2、江別版「生涯活躍のまち」構想についてですが、3ページの文章の最後にも同様に構想の名前が記載されております。この構想の“「 」かっこ”のつけ方ですが、「生涯活躍のまち」という名前の構想という意味でこのような表記なのか教えていただけますか。

本多課長： 当日配付資料2の表題に書かれている、この“「 」かっこ”の位置は、生涯活躍のまちに“「 」かっこ”がつく現在の表記が正しいものでございます。

委員長： わかりました。固有名詞に当たるので、3ページの生涯活躍のまちにも“「 」かっこ”がついていた方が読みやすいと考えます。これは、後のページにも登場しておりますが、どういたしますか。

本多課長： 委員長がおっしゃるように、生涯活躍のまちに“「 」かっこ”をつける表記で揃えさせていただきます。

委員長： 私からは以上です。他にご質問はございますか。

石井委員： 質問させていただきます。前回も指摘したのですが、公用文の表記の仕方について、1ページの法律根拠がありますが、例えば、「障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和35年法律第123号）（以下、障害者雇用促進法といいます。）」と表記されておりますが、（昭和35年法律第123号。以下、「障害者雇用促進法」といいます。）と表記するのが正しい表記なのではないかと思えます。しつこいようですが、公文書ですので、法制係などの担当部署と協議し、文言の表記は正確なものでお願いしたいと思います。文書の表現は基礎的な部分ですので、もう一度検討願いたいと思えます。

本多課長： 石井委員のおっしゃられることは、公用文としての規則に則り表記すべきということかと思えます。確かに、条例や要綱などは、石井委員がおっしゃられた表現になろうかと思えます。計画につきましては、法令ではなく、あくまでも計画であり、市民の皆様もご覧になるものでございます。前回の石井委員のご意見も踏まえた上で、このような表現をとらせていただいております。以上でございます。

石井委員： 要するに、計画を読むのは市民の皆様で、現在の表記の方が伝わりやすいとお考えになっているわけですね。しかしながら、専門家が見れば、公文書なのにこの表記はいかがなものかと指摘を受け、委員会で議論したことが台無しになってしまうと思えますが、いかがでしょうか。

委員長： ご指摘ありがとうございます。今回のご意見についても、パブリックコメントでお気づきになった市民の方から意見があるかもしれません。事務局の説明としては、わかりやすさを第一に考えての表記にしたということですので、パブリックコメントの中で指摘があるかどうか見てみたいと考えますが、よろしいでしょうか。（委員承認）

委員長： その他にご質問等はありませんか。（特になし）

では、これまでの修正のほかに、新たに修正した方がよいのではないかというご意見があればいただきたいのですが、いかがでしょうか。

石井委員： 私から1点よろしいですか。市役所は、障がい者の法定雇用率を満たしているのでしょうか。

白石室長： 私は、以前職員課におりました。現在の正確な数値というのは把握しておりませんが、障がい者雇用率は達成しておりました。正職員、非常勤職員や臨時職員の方もいらっしゃいますので、障がいのある方を雇用していくことは重要であると考えて取り組んでまいりました。業

務内容は障がいの有無に関わらず作業区分を設けておりませんし、正職員の採用については障がい者採用枠を設けて採用しております。本市としては、障がい者雇用率を高めるために他の事業者と同様の努力をしているところでございます。

石井委員： もう1点よろしいですか。21ページの施設入所者の表ですが、表の見方がどうもわかりづらいと思います。表中に「B26」、「B27」、「B28」と表記されておりますし、減少数の欄では、“+（プラス）”、“-（マイナス）”が出てきます。これは、“マイナス”でも「減少数」と表記されるのでしょうか。また、28年度は“プラス”になっています。“プラス”になっていても、「減少数」と表現するのでしょうか。

本多課長： まず、「減少数」の表現ですが、全入所者数196人に対して28年度では195人となり、196人から195人に施設入所者が減少しているため、表現は問題ないと考えております。

永利主査： 私からもご説明させていただきます。施設入所者数の「減少数」については、今回の計画の地域移行の基本目標に関する数値を掲げたものとなっております。例えば、平成26年度については、全入所者数196人から入所者数が198人になっており、施設入所者が2人増えていることから、施設入所者の「減少数」としては減少すべき入所者が2人増えてしまっております。ここで“2”と表してしまうと、「減少数」が“2”となり、減少した入所者の人数が2人という誤った見え方になってしまいます。一見するとわかりにくい表記になってしまっているのですが、施設入所者を地域生活へ移行していこうとする中で、減少すべき入所者数が2人増えてしまっているため、目標値を達成するためには“マイナス”となってしまったという意味合いで“-（マイナス）2”というような表記になっております。

また、「B26」、「B27」、「B28」という表記については、表中の「減少数」を全て“B”で表してしまいますと、目標年度全入所者数である「B」と混同してしまいます。事務局としては、よりわかりやすい表記として“26年のB”、“27年のB”、“28年のB”という意味合いで、「B26」、「B27」、「B28」と表記させていただいております。以上でございます。

委員長： 地域生活への移行者を増やしていきたいというのが目標ですので、目標に対して“プラス”にならなかったのも、“マイナス”という表記になるということですね。そのような表記の仕方はよく目にすることがあります。上の説明文を見ると、この数字の意味が説明されているのでよいと思います。

四條課長： 補足をさせていただきます。今回の目標値は、減少することを目標としたものとなっております。実績値としても、どれだけ減少したかということを目指しております。その中で、施設入所者が減少していれば、“プラス”になり目標達成との見せ方が可能となるのですが、平成26年度に関しては、基準年の全入所者数の196人に対して198人ですので、施設入所者が増えてしまっている。ただし、減少することが目標になるので、目標達成から遠ざかっているということで、目標達成に向けては“マイナス”というような表現とさせていただいているということでございます。

石井委員： 文章を読めば分かりますが、やはり市民や障がいのある方が目にしたときに、わかりやすい表記にさせていただきたいというのが私の希望です。事前に資料が送られており、1ページから最後まで見ましたが、ここだけがどうも理解しにくい部分でした。

委員長： この表記に違和感があるということですね。目指している目標に対してそうならないから“マイナス”という表記は、記述上はよくあることです。よろしいでしょうか。（委員承認）
それでは、他に委員の皆様からご意見等ございませんので、本日晒された案を委員の皆様一

致で決定するということによろしいでしょうか。(委員承認)

では、この案をもとにパブリックコメントを実施していただきたいと思います。事務局の方々、よろしくお願いいたします。

それでは、次に進みたいと思います。議事(2)パブリックコメントの実施について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局から資料について説明】

委員長： 今の説明について委員の皆様からご意見・ご質問はございませんか。(特になし)

では、私から2点あります。1点目は、この資料は市民の皆様を示されるものでしょうか。

本多課長： この資料は、委員の皆様にはパブリックコメントをする目的等を説明するためのもので、実際にパブリックコメントを実施するときに市民の皆様にお示しするものではありません。

委員長： 公表されるものでなければ、私からの以降の質問は結構です。

本多課長： パブリックコメントを実施する際には、計画案と募集案内が配付されます。募集案内については、表現についても十分注意して作成したいと思っております。

四條課長： 補足させていただきます。当計画のパブリックコメントについてですが、健康福祉部におきまして、同時期に4本のパブリックコメントを実施することとなっております。当計画の他に高齢者総合計画、データヘルス計画、子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて実施いたします。パブリックコメントを実施する際にはフォーマットを統一し、市民の皆様にご意見募集のご案内を実施する予定となっております。

委員長： 追加でもう1点、よろしいでしょうか。1月の広報にも掲載するということですが、1月の広報は概ね何日ごろ市民の皆様へ届くのでしょうか。

四條課長： 一般的に、12月の最終週には、各地域の自治会の班長のところに届きます。早いご家庭では年内に届き、遅くとも年明け間もない頃にはお手元に届いているという見込みでございます。

委員長： ありがとうございます。パブリックコメントの実施期間に影響はないという理解でよろしいですね。その他、委員の皆様からよろしいでしょうか。(特になし)

次第3「その他」について委員の皆様からご意見があれば伺います。(特になし)

それでは、事務局からお願いいたします。

宮崎係長： 次回策定委員会の日程についてでございますが、パブリックコメントが1月下旬まで実施されます。よって、パブリックコメント実施後に次回の策定委員会を開催させていただきたいと考えております。

日程につきましては後日調整をさせていただきますが、来年2月16日金曜日又は23日金曜日のいずれかで調整をさせていただきたいと考えております。ご予約の確認をお願いいたします。

委員長： では、委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で、本日協議する議事はすべて終了いたしました。どうもありがとうございました。